

INDEX

1 第10回FDフォーラムを開催しました

2015年11月14日(土)に、市ヶ谷キャンパス外濠校舎S407教室にて第10回FDフォーラムを開催しましたので、その模様を報告いたします。

2 第9回FDミーティングを開催しました

2015年11月14日(土)に、市ヶ谷キャンパスS401教室にて、第9回FDミーティングを開催しましたので、その模様をご報告いたします。

3 第8回FD学生の声コンクール 受賞者の決定について

今年で8回目の開催となりましたFD学生の声コンクール受賞者が決定しました。
今年度は、「心がうごいた、あの瞬間」というテーマのもと、53作品が集まりました。

発行:
法政大学
教育開発支援機構
FD推進センター

ホームページ
<http://www.hoseikyoku.jp/fd/>

問い合わせ先
fd-jimu@hosei.ac.jp

1 第10回FDフォーラムを開催しました



2015年11月14日(土)に第10回FDフォーラムを市ヶ谷キャンパス 外濠校舎4階 S407教室で開催いたしました。

今回のテーマは「大人数授業での工夫」です。本学を始めとする私学の大規模大学では、今も多くの「大人数授業」があります。

「大人数授業」は、一方通行型や必要悪とまで言われ、きめ細やかな指導ができる少人数授業やアクティブ・ラーニング(双方向型授業)の対極として度々目の敵にされますが、教員の創意工夫により、授業を活性化し、教育効果を上げている例も多々あります。今回は「大教室だからできない」ではなく「大教室でも」あるいは「大教室だからこそ」できる授業活性化の工夫をしている先生方の悪戦苦闘のお話を通じて、「大人数授業での工夫」について考える機会となりました。

当日は、佐藤良一教育支援本部担当常務理事の自身の「大人数授業」経験を交えたご挨拶の続き、「大人数講義型におけるライト・アクティブラーニング～低意欲学生の笑顔と目の輝きを求めて～」と題して橋本勝教授(富山大学教育・学生支援機構・教育推進センター副センター長)にご講演いただきました。橋本教授は「橋本メソッド」の開発者として知られ、競争原理やゲーム感覚を上手く使った「大人数授業」を展開しています。



今回の基調講演では、「橋本メソッド」の紹介にとどまらず、授業をアクティブ化する意義や学生に負担を感じさせず、無理なく主体性を引き出す工夫についてもお話いただきました。特に学生と教員との双方向ツール「シャトルカード」の実例に書かれた橋本先生のコメントの多さには一同ため息がでる思いでした。「学生に負担を感じさせない」授業を行うための橋本先生のご努力の一端が垣間見えるものでしたが、お話自体も大変面白く、橋本先生のお人柄と相まって、みなさん聞き入ってしまいました。もちろん「大人数授業」の定番とも言える「居眠り」をしていた聴衆が皆無であったのは言うまでもありません。

話題提供は、「大人数授業での試行錯誤～追手門学院大学の場合～」梅村修教授(追手門学院大学基盤教育機構長)、「社会科学系授業におけるアクティブ・ラーニングの試み」佐渡友哲教授(日本大学法学部)、そして、「大人数授業をよりアクティブにするために～事務職員にできること～」ということで事務スタッフから細田泰博課長(小金井事務部学務課)にご講演いただきました。



梅村先生からは、講義談話に現れるメタ言語的表現の分析に基づく、教師の語り口の大切さについて、また佐渡友先生からは「フォトランゲージ」(写真や絵を使い、その中の人の立場から考えたり問題点を引き出ししたりする)を使った授業の工夫について事例紹介いただきました。どちらもちょっとした工夫が教室をアクティブ化するという大変優れた事例で、参加者は目からウロコの経験ができたのではないのでしょうか。最後の細田課長は事務スタッフとして、いかに教員を盛り上げて授業を活性化するか、そのために事務スタッフとしてどんなサポートができるかというお話でした。当日は本学の他、他大学の事務スタッフの参加者もあり、事務の立場から大変参考になったとの声が寄せられました。講演後のパネルディスカッションでも様々な質問が出るなど、大変盛況なフォーラムとなりました。

ご案内

講演の様子は、今後Webコンテンツにて公開します。URLが決まりましたら、別途ご案内いたします。

2 第9回FDミーティングを開催しました

第10回FDフォーラムを開催した同日に、FD推進センターでは、もうひとつのイベントである、第9回FDミーティングを並行開催していました。本講座は、アルク教育社 吉中昌國講師をお招きし、「英語で効果的に教えるために～日本語での授業にも役立つコツ～」についてを取り上げました。吉中講師は、今年度7月に、新任教員FDセミナーでもご講演いただき、大変好評でしたので、今回は講座の時間を6時間とし、8名限りの贅沢な講座として開催しました。



本講座では、事前に受講者にスピーキングテストを受講していただき、その結果をもとに、講師が内容を事前に組み立てて開催されました。そのため、非常に受講者に寄り添った内容となっており、また吉中講師の話術の巧みさ、プレゼンテーションのうまさに加え、適度な間隔でのグループワークが挿まれた構成となっており、6時間もあっという間に感じた講座となりました。

今回、この紙面では、6時間の内容をすべてお伝えはできませんが、吉中講師よりご教示いただいた内容を、少しだけピックアップしてご紹介します。

・シラバス作成の際におすすめすること

日本人学生にとっては、あたりまえの事でも、文化の違いによって伝わりにくいことが多くあるように見受けられる。特に、留学生は、成績が奨学金とリンクしていることが多いため、成績トラブル防止のためにも、教員は事前にしっかりと自分の授業におけるルールを明示することをお勧めしたい。



・文化の違いを知っておくと良い！

例1) 留学生に、「研究室を皆で順番に掃除しよう」と言ったら、とても驚いた顔をした。

→階級区分がしっかりとした文化圏では、共用部分の掃除を仕事にしている人から、その仕事を取らないよう、掃除は自分でせず人に任せるほうがよい、という考え方がある。



例2) 留学生が、実験器具を間違えて使って壊してしまったが、謝ろうとしなかった。

→謝罪することは、「責任を取る・弁償を要する」と解釈する文化圏がある。

日本では、自分のミスによるトラブル時には、何よりもまずお詫びを述べて誠意をあらわすことが多いが、一方でそのお詫びの言葉のもつ意味が異なる文化もあることは、知っておくと良い。

3 第8回FD学生の声コンクール 受賞者の決定について

今年で8回目の開催となったFD学生の声コンクールの受賞者が決定しました。

今年度のテーマは、「心がうごいた、あの瞬間」でした。大学という多様な環境に身を置くからこそ経験をすることができ、そして心を大きく揺り動かした、授業や学習に関する実体験を作品にして欲しいという思いのもと、2015年9月21日～10月9日まで作品を募集しました。

結果、53作品が集まり、右のとおり受賞者が選ばれました。

授賞式は、2015年12月25日(金)に執り行われます。授賞式の模様は、また次号でご報告いたします。

おめでとう
ございます！



受賞	応募者氏名	所属	学年	作品タイトル
最優秀賞	判治 有希里	文学部	3	96点の意味
優秀賞	野口 愛優	文学部	2	思考を始めた、その瞬間
優秀賞	田中 琴子	国際文化学部	4	Dead Fish
優秀賞	立壁 祥子	キャリアデザイン学部	2	市ヶ谷駅からボアソナードタワーの道
優秀賞	栗崎 大輝	理工学部	3	つまらないを面白いに
佳作	武子 あゆみ	法学部	2	五感の「学び」
佳作	田辺 悠大	法学部	4	懐心転じて夢となす
佳作	栢森 涼	文学部	1	たまねぎになりたい「自分」
佳作	氏名非公開	文学部	3	大学生は原石だ
佳作	松岡 豊寿	文学部	2	ひとつのことをやりぬく
佳作	大野 沙紀	文学部	3	最前席
佳作	岩舘 有紀	経済学部	3	「絶対に夢を叶えます。」
佳作	山本 詩帆	国際文化学部	4	一歩、立ち止まる
佳作	石井 陽子	国際文化学部	4	貴重な出会い
佳作	松橋 さやか	国際文化学部	4	ただひとつ
佳作	齋藤 瑞季	国際文化学部	4	授業内文通の楽しみ
佳作	關谷 光	理工学部	3	やりたいことは
佳作	吉田 祐真	理工学部	3	「雑談」の重要さ
佳作	蓮池 由梨	生命科学部	3	追い風
佳作	竹内 泰人	大学院理工学研究科	1	英語ってすごい
佳作	宮崎 雄輝	大学院デザイン工学研究科	2	それぞれの観歩